

病害虫発生予報 第8号（11月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

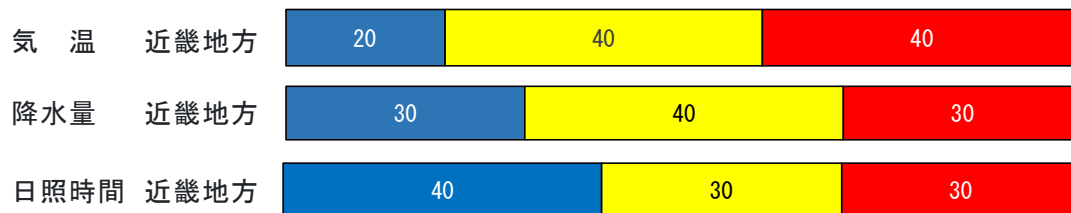
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病	並	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ	やや少
	うどんこ病	並		ハスモンヨトウ	並
	つる枯細菌病	並		オオタバコガ	やや少
	ハダニ類	やや少			
	ウラナミシジミ	やや多			
ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病	並	カンキツ	果実腐敗病	並
	アブラムシ類	やや少		ミカンハダニ	やや多
	コナガ	やや少	果樹全般	カメムシ類	並～やや多
	ヨトウガ	並			

気象予報

近畿地方 1か月予報（10/23～11/22）

2021年10月21日14時30分 大阪管区气象台 発表		
向こう1か月 10/23～11/22	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
2週目 10/30～11/05	気温	2週目は、高い確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



低い（少ない）
 平年並
 高い（多い）

I. 野菜・花き

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は25%（平成15%）、発病葉率は0.5%（平成0.5%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は17%（平成4%）、発病葉率は0.4%（平成0.9%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平成3%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは予防効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は9%（平成32%）、生息株率は4.5%（平成13.6%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培における10月中旬の被害発生ほ場率は73%（平成60年）、被害株率は26.4%（平成21.3%）であった。
- ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。
 - ② 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10日間隔で防除を行う。

＜ハクサイ、キャベツ＞

1. 黒斑細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のハクサイ、キャベツにおける10月中旬の発生ほ場率はいずれも0%（平成：ハクサイ7%、キャベツ6%）であった。
 - ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 降雨前に薬剤を予防散布する。

2. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率21%、生息株率3.0%）であった。ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率38%、生息株率8.9%）であった。
 - ② 黄色水盤（紀の川市）への10月1～20日の飛来数は、29頭（平成41.8頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤散布にあたっては薬液が株元の葉裏に十分かかるように行う。

3. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率8%、10株あたり生息密度0.0頭）であった。
 - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市31頭（平成56.7頭）、紀の川市0頭（平成0.1頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

4. ヨトウガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率1%、生息株率0.1%）であった。
 - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市3頭（平成7.2頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発生初期の若齢幼虫の防除に努める。

<野菜・花き全般>

1. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率6%、生息株率0.3%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率8%、生息株率1.3%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市9頭（平年15.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

2. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は29%（平年13%）、生息株率は2.9%（平年1.3%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は18%（平年23%）、生息株率1.8%（平年4.9%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市409頭（平年1,654頭）、紀の川市725頭（平年969頭）、御坊市669頭（平年2,189頭）、印南町197頭（平年934頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シロイチモジヨトウに準ずる。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率5%、生息株率0.3%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は18%（平年18%）、生息株率1.8%（平年3.7%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市11頭（平年32.2頭）、御坊市1頭（平年32.1頭）、印南町6頭（平年21.8頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中～老齢幼虫に対する薬剤の防除効果は低いので、若齢幼虫期に防除するよう努める。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生ほ場率は9%（平年12%）であった。
- ② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。
- ② 収穫前の薬剤散布を励行する。
- ③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬の発生ほ場率は28%（平年9%）、発生葉率は3.6%（平年1.7%）であった。
- ② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 収穫前の薬剤散布は使用時期に特に留意する。
- ② 収穫時期まで袋かけを行う品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並～やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における10月中旬のカキの被害果率は「富有」で3.5%（平年8.5%）であった。
- ② 紀の川市粉河の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが369頭（平年154頭）、ツヤアオカメムシが429頭（平年289頭）であった。
- ③ 有田川町奥の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが73頭（過去7年の平均117頭）、ツヤアオカメムシが1,117頭（同501頭）であった。
- ④ みなべ町東本庄の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが192頭（平年1,136頭）、ツヤアオカメムシが7,955頭（平年7,067頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、発生に応じて防除を行う。
- ② 発生がみられるほ場で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。
- ③ 令和3年10月14日発表の病害虫防除技術情報（第9号）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/
boujyosyo-yosatsujyouhou.html](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html)

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780